

学校改革プロジェクト委員会（研究推進）通信

平成 29 年 9 月 25 日

9月21日（木曜日）7限に1年1組の国語総合の授業において、宮園花菜先生の研究授業が実施されました。今回の指導のポイントは「お互いの文章を読み合い相互評価することによって、自分の考えを相手に伝えられる力を身につける（自己表現力の向上）」「批判的な視点を持ちながら意見交流を行う」でした。本校の生徒は小学校時代からの同級生が多く、お互いに改善点を指摘し、高め合うことが大切ということや、間近にせまった大学入試改革を意識した授業だったと思います。今回の授業は本校の生徒が入学試験や入社試験で課される小論文・作文でも生かされる内容です。どのような生徒を育てるのか、そのためにどのような授業を行っていくのかを模索していくことが必要だと思います。

今回は、岐阜大学棚野勝文教授をはじめとして、白鳥中学校の校長先生・教頭先生、牛道小学校の校長先生、石徹白小学校の校長先生にも参加していただきました。小学校・中学校の先生方はどのような視点で研究授業を参観されていたのでしょうか。小・中学校の先生方は普段の研究授業でも1つのグループ（もしくは1人の生徒）に着目し、1時間でどのように生徒が変容（成長・変化）したのかを、観察しているのです。

教員が「どのような授業をすることで、どのような力がついて、その力は今後どのような場面で生かされるのか」という視点を持って授業をすることや、単元の最初や授業の冒頭で「何ができるようになるのか」ということを生徒に明確に伝えることが、授業改善の第一歩につながる大切なことであると考えます。



ご自身の授業で取り入れたいと感じたこと（授業の手法等）はどのようなことですか。

- ・ ICT の導入
- ・ 授業の雰囲気作り
- ・ 教師が感想を言うのではなく、生徒に感想を言ってもらう
- ・ 先生のあたたかい雰囲気
- ・ 生徒の相互評価させるところ
- ・ 生徒に意見を求めたときに、何か出てくるまでしっかりと待つこと
- ・ グループワークの評価を書き合うところ
- ・ 教員からの声かけ、ほめて意見を導き出す
- ・ A・B・C 評価で相互評価
- ・ 生徒への意見のコメントの仕方
- ・ 何が良いのか理解させ、自分で改善できるようにする
- ・ 授業の見通しを持たせること
- ・ グループ交流→代表者選出→発表

授業研究会で、「なるほど!」と思ったことはありますか。

- ・考えを深める ICT
- ・文章を共有することによって、読み書きの能力が向上できる
- ・相互評価に慣れていない生徒に対して、どのような観点でお互いの作品を見ると良いかを示す（レクチャーする）という助言
- ・振り返りシートは要点をしぼるなど、工夫するとよりよくなるということ
- ・今後は、文章の要約化をするとよい
- ・グループの分け方に配慮するという意見
- ・声かけの大切さ
- ・グループワークの手法
- ・ポイントをおさえた指摘
- ・ライブ感、具体的に動いている様子
- ・ほめる
- ・雰囲気づくり、授業構成
- ・色々な視点から意見を聞くことができた、それぞれの先生が授業改善の意識を持っている

「主体的・対話的で深い学び」について聞いたことや、知っていることはありますか。

- ・アクティブラーニング
- ・単に憶えるのではなく、自身が持っている知識を使って思考する
- ・自ら行動し、学んだことは、悩んで記憶する部分に大きく影響をすると聞いている
- ・生徒が自ら学ぶ、伝えていく
- ・言語活動を結果的に活用して授業を進めると、深く理解しやすいということ
- ・大学時代のゼミは、そういう学びの場だった
- ・コミュニケーション能力を身につけさせる
- ・基礎的な知識やその分野に対する強い興味・動機づけが必要
- ・書く、話すという経験を通して、自分の考えを相手に伝える能力を身につける、また相手の考えも受け入れる態度（聞く態度）の力をつけることも必要

大学入試改革に向けて、授業改善をしていることはありますか。

- ・論述
- ・生徒の集中力が持続できるような内容に取り組みたいと思います
- ・文章の要点をまとめたり、文章や口頭で自分の意見を表現したりする活動
- ・自らの意見を考えさせる場面を多くつくり、発表させる
- ・生徒自らが表現できる場を増やす
- ・大学入試のあり方が変わることによって、本校の生徒にも様々なチャンスが生まれると思うので、小論文やプレゼンに役立つ内容・やり方を取り入れていきたい
- ・コミュニケーション能力を身につけさせる
- ・活用できる知識を使用できるようにする
- ・資料から読み取って、自分なりに意見をまとめる力

多くの先生にご参加いただき、ありがとうございました。